

2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 6 日作成)

小委員会名	風荷重小委員会	主 査 名：河井宏允 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 荷重運営委員会	委員長名：中島正愛 主 査 名：河井宏允
設 置 期 間	2008 年 4 月～2012 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・(2008 年度) 建築物荷重指針の改訂に向けたロードマップの検討, CFD 耐風設計法、外装材の耐風性能評価、突風に対する耐風設計、仮設構造物を含めた設計用再現期間の設定、設計資料の電子提供の討議, 建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価に関するシンポジウムの開催 (東京) ・(2009 年度) 2008 年度の検討の継続, 建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価に関するシンポジウムの開催 (大阪) ・(2010 年度) 荷重指針改定に向けての第 6 章風荷重の構成と内容項目の検討と, 外装材ガイドブック及び CFD ガイドライン作成の審議 ・(2011 年度) 荷重指針改定に向けての各項目に関する実質的な作業の開始と外装材ガイドブックの原稿の作成, 次年度以降の課題の整理と, 改訂指針の目次案の作成 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：河井宏允 (京都大学) 幹事：奥田泰雄 (建築研究所) 委員：植松 康 (東北大学)・大熊武司 (神奈川大学)・大竹和夫 (竹中工務店)・片岡浩人 (大林組)・片桐純治 (泉創建)・菊池浩利 (清水建設)・近藤宏二 (鹿島建設)・谷口徹郎 (大阪市立大学)・田村哲郎 (東京工業大学)・田村幸雄 (東京工芸大学)・寺崎浩 (大成建設)・西村宏昭 (日本建築総合試験所)・吉江慶祐 (日建設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・CFD 耐風設計法 WG：CFD での予測精度と設計上必要な精度の関係を明らかにする。CFD を建築物の荷重等を算定する場合の条件 (ガイドライン) を明確にするとともに, 荷重算定にあたって CFD をどのように用いるかを解説したガイドブックの作成方針を検討し, 2012 年度の大会で PD を開催する。 ・外装材耐風性能 WG：2008 年に纏めた建築物の耐風設計資料「建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価」を踏まえて, 外装材の耐風設計ガイドラインの検討を行い, 実務者のための建築物外装材耐風設計マニュアル」(仮)を 2012 年度中に刊行する。 ・耐風設計体系検討 WG：海外の風荷重規定との比較検討結果等を踏まえて, 竜巻等の突風に対する耐風設計のあり方, 仮設構造物を含めた設計用再現期間の設定方法, 設計資料の電子提供の方法などについて討議し, 建築物荷重指針改定のプロットを作成し, 風洞実験結果を荷重指針の動的荷重の算定に組み込む方法について検討する。 	
2011 年度予算	320,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s27/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	CFD 耐風設計法 WG、外装材耐風性能 WG、耐風設計体系検討 WG を設置し、荷重指針改訂に向けての討議はほぼ予定どおりに進んでいる。荷重指針のなかでの CFD の位置づけがワークショップなどを通して明確になり、本格的ガイドラインの策定作業に入る。2012 年度の大会 P D で発表する予定である。また、2008 年に行った外装材の耐風設計シンポの開催結果を受け、「実務者のための建築物外装材耐風設計マニュアル」(仮)を 2012 年度中に刊行することをめざしドラフトが完成、2012 年度中に刊行の予定で各種作業を進めている。
委員会活動の問題点・課題	委員会旅費などの関係から東京以外の委員が極めて少ない。今後は、電子会議などを通じて、東京以外の関係者の意見も積極的に取り入れられるような活動をめざしたい。